

第 123 回日本消化器病学会九州支部例会

会長 平田 敬治 (産業医科大学 医学部 第 1 外科)

第 117 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会

会長 芳川 一郎 (産業医科大学病院 内視鏡部)

合同開催のご案内

会期 : 令和 6 年 6 月 21 日 (金)・22 日 (土)

会場 : 北九州国際会議場 〒802-0001 北九州市小倉北区浅野 3-9-30

テーマ : 絶え間なき発展

■特別講演 1

「肝臓再生医療における血管、リンパ管系の役割 (仮)」(消化器病学会)

演者 : Yasuko Iwakiri, PhD (Yale School of Medicine, Section of Digestive Diseases)

司会 : 平田 敬治 (産業医科大学 医学部 第 1 外科)

■特別講演 2

「消化器癌の光線力学的診療」(内視鏡学会)

演者 : 磯本 一 (鳥取大学医学部 消化器腎臓内科学)

司会 : 芳川 一郎 (産業医科大学病院 内視鏡部)

■シンポジウム (公募)

1. 胆膵疾患に対するインターベンションの現状と今後の課題 (消化器病学会/内視鏡学会)

司会 : 藤森 尚 (九州大学大学院 病態制御内科学)

小澤 栄介 (長崎大学病院 消化器内科)

Discussant : 石田 祐介 (福岡大学医学部 消化器内科学講座)

胆膵疾患診療において、インターベンションの果たす役割は大きい。近年、経消化管アプローチ (EUS-BD) が急速に拡がり、ERCP failure 例に対する EUS-BD の有用性はほぼコンセンサスが得られている。しかしながら、内視鏡で全ての症例に対処できるものではなく、経皮的アプローチ・外科手術も同様に重要であり、重篤な合併症リスクや、厳密な適応の検討、適切な modality の選択、合併症回避の方策などが必要である。本セッションでは、胆膵疾患に対するインターベンションについて各施設の成績や工夫を呈示して頂き、現状と今後の課題を共有する場としたい。対象疾患は良悪性を問わず、多様なアプローチルートからの報告を幅広く募集する。

2. 膵癌に対する術前治療の現状 (消化器病学会)

司会 : 丸尾 達 (福岡大学筑紫病院 消化器内科)

平下禎二郎 (大分大学医学部 消化器・小児外科学講座)

Discussant : 橋元 慎一 (鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学)

膵癌に対する術前治療が標準的に行われるようになり、R0 切除率や無再発生存率の向上への期待はもちろんのこと、治療導入までの期間短縮、切除可能膵癌の見極めなど、多くのメリットを持つ可能性がある。一方で、術前治療は確定診断の必要性、最適な治療方針の選択、手術の至適時期など課題となる点もあり、施設ごとに異なる

る方針となっている現状もある。本セッションでは、切除可能/切除可能境界の膵癌の術前治療に関して、1. 確定診断のための術前検査、2. 治療方法、3. 治療効果判定・治療期間、などに関して、各施設が標準的に行なっている検査や治療の成績についての演題を幅広く募集し、術前治療の利点と課題が明確となるセッションとしたい。

3. 消化管疾患の低侵襲治療～現状と工夫～（消化器病学会／内視鏡学会）

司会　　： 隅田 頼信（北九州市立医療センター 消化器内科）
 衛藤 剛（大分大学グローバル感染症研究センター）
Discussant： 下田 良（佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部）

消化管疾患に対する治療には安全性・患者 QOL 向上、そして悪性疾患の場合には根治性が求められる。内視鏡を始めとした医療機器・技術の進歩により我々は多岐にわたるアプローチを駆使して日常診療を行っており、MIS (minimally invasive surgery) や Underwater EMR、CSP、ESD などがすでに臨床導入され成果をあげている。本セッションでは各施設の良性、悪性の消化管疾患に対する治療法および治療戦略の現状と工夫、特に合併症予防のための工夫を示していただきたい。また BTS (bridge to surgery) や LECS のような内視鏡治療と内視鏡外科治療との cooperation の治療成績についても示していただき、今後の課題および将来展望について議論していきたい。

4. 緊急消化管内視鏡診療の最前線（消化器病学会／内視鏡学会）

司会　　： 久米井伸介（産業医科大学 第3内科）
 大津 健聖（戸畑共立病院 消化器病センター）
Discussant： 山口 直之（長崎大学病院 消化器内科(光学医療診療部)）

消化管緊急内視鏡は時代の変遷に伴い変化している。超高齢社会の到来、抗血栓薬内服の増加に合わせて PPI などの予防投与がなされ、一部の消化管出血は減少しているが、大腸憩室出血や薬剤性粘膜障害を多く経験する。内視鏡技術の進歩により、消化管腫瘍に対する内視鏡治療に関連する消化管出血や穿孔、外科手術合併症に対する内視鏡処置を行う機会も増えている。さらに、小児から高齢者まで異物や狭窄・イレウスなど緊急内視鏡処置を行う機会も多い。本セッションでは、消化管に限定して各施設における現状や診療体制、内視鏡治療の工夫・適応・限界、治療成績、合併症などについて幅広く発表を募集し、明日からの内視鏡診療の一助にしたい。

5. 炎症性腸疾患診療の進歩と課題（消化器病学会／内視鏡学会）

司会　　： 荻野 治栄（九州大学大学院 消化器代謝学講座）
 芦塚 伸也（福岡大学医学部 消化器内科学講座）
Discussant： 竹田津英稔（久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門）

IBD 診療における進歩は早く、常に新しいアプローチが求められる中、多くの臨床的な課題が浮上している。治療においては、生物学的製剤や JAK 阻害薬の位置付けや使い分け、長期成績や無効症例への治療選択、診断においては LRG やカルプロテクチンなどのバイオマーカーや画像検査などのタイミング、外科的治療においては CD に対する術後再発予防方法や肛門病変の治療戦略など、多くの課題が存在する。本シンポジウムでは、新規治療薬、バイオマーカー、画像診断、組織学的治療、内視鏡治療、外科的治療など、幅広いテーマでの演題を募集する。IBD 診療の進歩と課題の現状を整理し、九州からのエビデンス創出につながる議論が交わせることを期待したい。

6. 消化管悪性腫瘍に対する個別化医療の“いま”と“未来”（消化器病学会／内視鏡学会）

司会　　： 柏田 知美（佐賀県医療センター好生館 臨床腫瘍科）
 宮本 裕士（熊本大学大学院 消化器外科学）
Discussant： 沖 英次（九州大学大学院 消化器・総合外科）

切除不能・進行再発消化管がんの治療は、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬、新規バイオマーカーの登場により、その治療選択肢が複雑化している。さらに、Conversion 手術や局所進行直腸癌に対する Total neoadjuvant therapy (TNT) 等の集学的治療の発展も著しい。このように、進行がんであっても治癒・長期生存を目指す新時代に入ったが、個々の症例に対する治療適応や治療介入のタイミングについては、未だ十分なコンセンサスは得られていない。本シンポジウムでは消化管がんに対する集学的治療の体系化に向けた個別化治療の”今”をご発表いただき、”未来”に向けた診療科横断的議論を深めたい。

7. 新時代の肝疾患診療（消化器病学会）

司会：馬渡 誠一（鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学）

国府島庸之（国立病院機構九州医療センター 消化器内科）

Discussant：高橋 宏和（佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター）

抗ウイルス剤の発達により大多数のウイルス肝炎症例は治癒・制御が可能となり、肝硬変合併症治療や肝癌薬物療法の選択肢も大きく拡大したが、それぞれの治療効果や有害事象、予後への影響など検討すべき課題が残されている。また、近年のゲノム編集技術を用いた疾患動物モデルや疾患特異的な細胞培養系の開発、網羅的 RNA シークエンス・一細胞遺伝子発現解析などの新たな技術革新、人工知能技術を用いた機械学習モデル解析といった解析手法の進歩などにより、肝疾患領域においても病態や治療標的の解明・治療法の開発が進みつつある。本シンポジウムにおいては、このような背景を基に大きく変化する肝疾患診療について、希少疾患も含め領域を問わず、基礎、臨床の側面から広く公募し、新時代の肝疾患診療を探索する機会としたい。

8. 肝細胞癌に対する各種治療のコラボレーション（消化器病学会）

司会：新関 敬（久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門）

高見 裕子（国立病院機構九州医療センター 肝胆膵外科）

Discussant：藤川 貴久（小倉記念病院 外科）

薬物治療をはじめとする各種治療法の目覚ましい進歩により、進行した肝細胞癌では切除・局所療法・IVRなどと薬物治療との利点を生かしたコラボレーションにより治療成績を改善させることが重要となった。一方、その対象や治療プロトコールについて更なる検討が必要とされ、当セッションにおいては、各施設における進行肝細胞癌に対する様々なコラボレーションの治療成績をご披露いただきたい。また、日本肝癌研究会・日本肝胆膵外科学会合同プロジェクトから肝細胞癌の腫瘍学的切除可能性分類（Expert Consensus 2023）より、borderline resectable の新分類が提案された。すなわち、「BR1: 切除単独では一般に予後不良であるが集学的治療の一環としての切除により予後の改善を期待しうる3つの腫瘍条件」、「BR2: 切除による予後改善効果について十分なエビデンスが無く、集学的治療の中でその適当を慎重に判断すべき3つの腫瘍条件」である。この新分類に基づいた治療成績の比較検討や妥当性など、より良い治療方針を議論出来ればと期待している。

■女性医師の会 特別企画（消化器病学会／内視鏡学会）

働き方改革本格始動！消化器診療の行方は？

司会：南 ひとみ（長崎大学病院 消化器内科）

上村 修司（鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学）

2024年4月から、医師の働き方改革が始動する。この特別企画でも、これまでに働き方改革を取り上げ、対応するための個人、施設ごとの取り組みやアンケートの結果など報告されてきた。この1年は、本格始動に向けてさらに、施設整備、勤務時間の把握などが進んでいるようであり、新たな課題も見えてきているかと予想される。また、チーム医療や多職種連携、タスクシフトは働き方改革への対応に欠かせない話題であり、各施設でどのように準備し、工夫されているのかについて情報共有したい。個人ベースで準備できることの提案やメディカルスタッフからの応募も期待する。

■消化器病学会九州支部専門医セミナー

1. 肝臓 演者： 栗野 哲史（飯塚病院 肝臓内科）
 2. 胆膵 演者： 下川 雄三（北九州市立医療センター 消化器内科）
 3. 消化管 演者： 山本章二郎（宮崎大学医学部附属病院 消化器内科）
- 司会：平田 敬治（産業医科大学 医学部 第1外科）

■一般演題（公募）

■専攻医発表・研修医（医学生含む）発表（公募）

※シンポジウム、女性医師の会 特別企画、一般演題（口演）、専攻医発表、研修医発表を募集します。
※演題登録は、下記支部例会ホームページからのみのお申込みとなります。
※消化器病学会と内視鏡学会では、演題登録画面が異なります。詳細につきましては、
支部例会ホームページより演題募集ページをご確認ください（12月公開予定）。

演題募集期間：令和6年1月17日（水）正午～2月21日（水）正午
支部例会ホームページ <http://www.congre.co.jp/g123-e117kyushu/>

■お問い合わせ先

第123日回日本消化器病学会九州支部例会 産業医科大学 医学部 第1外科
第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 産業医科大学 医学部 第3内科
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 TEL 093-603-1611（代表）

運営事務局：株式会社コングレ九州支社

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-9-17 福岡天神フコク生命ビル11階
TEL：092-718-3531 FAX：092-716-7143 E-mail：g123-e117kyushu@congre.co.jp

併設研究会のご案内

第85回九州消化器内視鏡技師学会

日時：2024年6月22日（土）9：00～17：00（予定） 【現地開催のみ】
会場：ウエル戸畑 北九州市戸畑区汐井町1-6
医師世話人：久米井伸介（産業医科大学病院）
学 会 長：岩永 明子（産業医科大学病院）
学会長補佐：内藤 翼（製鉄記念八幡病院）
九州消化器内視鏡技師会会長：平田 敦美
九州消化器内視鏡技師会ホームページ：<http://www.kyusyu-gets.com/>

演題募集締切日：2023年12月31日（日）必着